

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立蒲原中学校 校長 根本幸男

1 学校図書館の現状 (今年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 13315 冊 (蔵書基準冊数 12160 冊) / 蔵書率 110.1% (前年度 114.6%)									
	② 新規購入図書 634 冊 / 廃棄図書 632 冊 / 増減冊数 +2 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.1%	3.7%	9.3%	8.9%	9.1%	4.9%	2.7%	9.3%	3.8%	45.1%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間: 12時40分~17時20分 (前年度からの変更 あり・なし)									
	② 生徒一人あたりの年間貸出冊数 7.17 冊 (前々年度: 7.98 冊)									
	③ 学校図書館利用率 63900% (前々年度 54900%)									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況 (今年度総括)

- ①新型コロナウイルス感染症対策により学校図書館の開館日数は減ったが、授業での図書の紹介や図書委員会の読書イベントなどの実施により、図書に興味をもつ生徒が増えた。
- ②各教科や学年と連携しながら、学校図書館を活用した授業を実施し、主体的に学ぶ力、課題解決能力を身につけさせることができた。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	①小学校からの読書習慣を継続し、読書に親しむ意欲を育成する。 ②学校図書館を活用した調べ学習を通して、生徒の課題解決能力を育成する。 ③学校図書館の利用の仕方、図書の扱い方を理解する。	
今年度の成果目標	達成基準	
①休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を利用し、読書ができる。 ②図書館の本や新聞等を活用した調べ学習を通して、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③学校図書館の利用マナー、図書館の仕組みを理解する。	①第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数 前年度と同数以上 ②読書活動や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合 100% ③学校図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率 100%	
目標達成状況	①第1学年の生徒一人あたりの年間貸出平均冊数は前年度と同数以上にすることができた。 ②新型コロナウイルス対策もあり、読書活動や探究活動の授業を十分に行うことができなかったが、社会科や総合的な学習などの授業を通して、図書を使用した調べ学習を行うことができた。 ③国語科と連携し、学校図書館オリエンテーションの実施率を100%にすることができた。	

第2学年	①読書習慣を継続し、読書に親しむ意欲を育成する。 ②学校図書館を活用した調べ学習を通して、学校図書やICT機器を使い分けながら、生徒の情報活用能力を育成する。 ③学校図書館の利用の仕方、図書の扱い方を理解し、生徒の規範意識を育成する。
今年度の成果目標 ①休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を利用し、読書ができる。 ②図書館の本や新聞等を活用した調べ学習を通して、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③学校図書館の利用マナー、図書館の仕組みを理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	達成基準 ①第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数 前年度と同数以上 ②読書活動や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合 100% ③学校図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率 100%
目標達成状況 ①第2学年の生徒一人あたりの年間貸出平均冊数は前年度と同数以上にすることができた。 ②新型コロナウイルス対策もあり、読書活動や探究活動の授業を十分に行うことができなかったが、社会科や総合的な学習などの授業を通して、図書を使用した調べ学習を行うことができた。 ③社会科で学校図書館オリエンテーションを実施し、学年生徒の受講率を100%にすることができた。	

第3学年	①読書を通して、自分の考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ②学校図書館を活用した調べ学習を通して、生徒の表現力を高める。 ③学校図書館のよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
今年度の成果目標 ①休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を利用し、読書ができる。 ②課題に応じて、図書や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、調べたことを表現することができる。 ③学校図書館の利用マナー、図書館の仕組みを理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	達成基準 ①第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数 前年度と同数以上 ②読書活動や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合 50% ③学校図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率 100%
目標達成状況 ①第3学年の生徒一人あたりの年間貸出平均冊数は前年度と同数以上にすることができた。 ②新型コロナウイルス感染症対策もあり、読書活動や探究活動の授業を十分に行うことができなかったが、総合的な学習の授業を通して、図書を使用した調べ学習を実施することができた。 ③新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校図書館オリエンテーションを十分に行うことができなかった。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ①既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を12月までに完了した。
- ②学期末に蔵書点検を行い、学校図書館支援員と連携しながら、図書資料の更新、廃棄を行うことができた。
- ③全蔵書の3割程度について、「3桁分類」への転換作業が完了した。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ①学校図書館支援員と協力し、学校図書館オリエンテーションやビブリオバトル等を実施することができた。
- ②各教科の授業において、学校図書館支援員と協力しながら、計画的に教科指導を行い、生徒の主体的な学びにつなげることができた。
- ③調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について学校図書館支援員に依頼し、積極的に情報交換を行うことができた。
- ④図書委員会の活動の充実をはかり、学校図書館支援員と連携しながら、生徒の学校図書館利用の向上に努めることができた。

【その他】

- ①年度末の貸し出し返却率が100%を達した。
- ②東和図書館との「調べ学習用図書」の配送サービスを積極的に利用することができなかったが、今後、配送サービスを利用したい。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、大規模校で不特定生徒が集まる可能性のある学校図書館の利用推進を図る活動は困難であった。

図書館担当教諭と学校図書館支援員は常に連携し、感染拡大の様子を注視しながらタイミング良く開館することができ、学校図書館を使った調べる学習コンクールにも参加することができた。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

- ①新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、学校図書館の昼休みや放課後の利用を禁止にするのではなく、学年ごとやクラスごとの利用にするなど、学校図書館を利用できる日を増やしてほしい。
- ②文学作品の設置を多くしてほしい。

7 今後の展望 一課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて一

生徒の図書に対する関心をもたせるため、学校図書館を活用した授業や図書委員会による読書イベントを多く実施し、生徒が学校図書館に関わり、図書に親しむ機会をより増やしていく。また、学校図書館資料の整理や図書館内の展示や掲示の充実を図り、生徒がより利用しやすい学校図書館環境を整えていく。

教職員の学校図書館活用における意識にばらつきがあるため、学校長の指揮の下、学校全体に学校図書館基本計画等の学校の方針を浸透させ、学校図書館の利用を促すことで、学校図書館運営を進める体制をつくっていく。

これらの取り組みにより、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能を向上させ、生徒が主体的に学校図書館を活用し、図書を利用した学習や読書を行える環境をつくっていききたい。